

コミュニティ・スクールだより



第30号

名張市教育委員会事務局発行
令和4（2022）年1月19日

学校と地域が連携・協働 錦生赤目小学校

～「地域とともにある学校」をめざして～

コミュニティ・
スクール推進目標

すべては、子どもたちのために
— 学校・家庭・地域が協働して、子どもを育てる —

錦生赤目小学校には、令和3年11月27日に開催した名張市教育実践交流会で、実践発表をしていただきました。コミュニティ・スクールの推進・充実に向けて、校長のリーダーシップのもと、学校と二つの地域（錦生地域、赤目地域）が一体となり、互いのつながりや信頼関係を大切に、地域人材や資源等を生かした、連携・協働による運営や取組の一部を紹介します。

【学校運営協議会 運営の工夫】

◎年間3回を基本として開催 ⇨運営協議会委員が参加しやすいように設定
⇨ 第1回…午前開催、第2回…午後開催、第3回…夜間開催

◎具体的なテーマを設定して、熟議を実施

※ これまでの熟議テーマの例

◆地域（ふるさと）を愛する、地域（ふるさと）で住みつけたいと思わせる子どもたちを育てるために、学校・家庭・地域ができることは何か？

◆「持続可能な学校支援の仕組みづくり」のために、どのようなことをしていくとよいのか。また、保護者や地域に啓発していくにはどうすればよいのか？

◆コロナ禍において、今、学校・家庭・地域ができることは何か？

◆コロナ禍での学校・家庭・地域の「協働」の機運を高めるために、子どもたちをはじめ、みんなが元気の出る取組をできないか？

◆子どもたちと地域が一緒になって学びをつくるために。

★参加者の声★

◇話し合うことで、年々学校への親近感が高まっている。「地域が好き！」と言える子らを育てたい。

◇地域の行事に子どもたちが参画していくことも検討してはどうか。学校と地域が双方向で交流できるとよい。



熟議することで、めざすものや
ゴールを共有し、協働へつなげる

～コロナ禍での学校・家庭・地域の「協働」の機運を高めるために～

コロナ禍で、子どもたちをはじめ多くの方が、一人ひとりの絆やつながりを持ちにくい環境となり、子どもたちの学びと育ちにも大きな影響を与えています。そのような中で、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、「子どもたちの豊かな学び」に向けて、協力・連携して取り組むことが重要であると考えました。そこで、「協働」の機運を高めるために、関わる多様な立場の人が、思いを出し合い、コロナの感染状況を踏まえたうえで、「今、どのようなことができるのか？みんなが元気の出る取組を展開できないか？」と、その実現・実行に向けたアイデアを出し合うなど、「熟議」を深めました。

コロナ時代のチャレンジ！！

・今だからこそ、気付けることがある
・今だからこそ、できる教育活動がある
・今だからこそ、鍛えられる力がある

《学校から地域へ》

- ⇨これまで校区の高齢者の方々には、むかし遊びを教えていただいたり、運動会を参観いただいたりと、子どもたちとふれあい、子どもの姿を見ていただく機会があったが、残念ながら今はコロナ禍でできない。
- ⇨校区で、一人暮らしをしている高齢者の方に対して、「自分たちと一緒にコロナ禍を頑張っていこう！」という、「はげましのメッセージ」を作成したらどうか。

子どもたちが一人暮らしの高齢者の方に手紙やプレゼントを作成し、地域の方々（民生委員）に届けてもらおう！ ⇨ 1学期後半作成、9月以降配布

児童会の運営委員が、各学年の教室で今回の取組や制作の手順等を説明
低学年…主にプレゼント作成
高学年…主に手紙作成



《地域から学校へ》

現在、SDGsの一環として、赤目地域で取り組んでいる「竹あかり」等の竹細工を、小学生に広める取組を進めよう！

- ⇨現在、各地域ごとに「竹あかり」作りを行っており、子どもたちが、地域のことや良さを知り得る一つの機会となる。
- ⇨子どもたちが、地域を好きになり、将来、住み続けたいと思えるような地域の魅力を発信していく機会につながる。
- ⇨6年生に教え、作った作品を卒業式で飾ってみてはどうか。良い思い出になるのではないか。

つながりが生まれ、スクール・コミュニティ(子どもを核とした地域づくり)へ



冬には、まちづくり委員会主催で和風を制作し、凧揚げ大会開催

夏季休業中に教職員が竹あかりづくりに挑戦

地域の方に支援いただきながら、児童が竹あかりづくりの体験